

第1章 新地域ビジョン策定の経緯

○「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年、改訂から10年 ○地域住民が共有できる2050年の「なりたい姿」を描く ○多様な主体がビジョンを共有し、取組や施策を進める

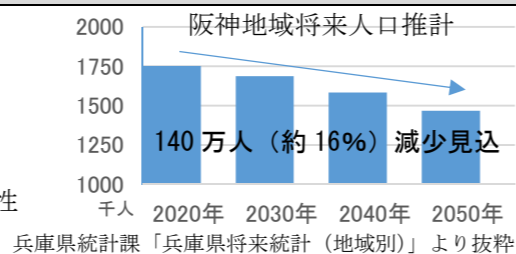
第2章 社会的潮流

	(1) 人口減少・超高齢化	(2) 自然の脅威	(3) テクノロジーの進化	(4) 世界の成長と一体化	(5) 経済構造の変容	(6) 価値観と行動の変化
現状 問題点	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会に突入 超高齢化の進展 合計特殊出生率は1.4前後で推移 	<ul style="list-style-type: none"> 風水害の激甚化 未知の感染症の発生 南海トラフ地震発生 	<ul style="list-style-type: none"> ICT、生命科学等の進展が空間等制約を超越する可能性 情報過多の危機 年齢層等に起因する情報格差の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ICTは世界を一体化 世界人口、国際経済の拡大 単なるものづくりは存在感が縮小 	<ul style="list-style-type: none"> 格差の拡大 社会のゆがみが生じる 省人化や自動化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsが世界の共通言語 持続可能性を重視する価値観やライフスタイルの広がり シェアリング・エコノミーの拡大
2050年 に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 高齢労働者の確保が可能 若者を含めた人口流動性の高まり デジタル技術活用による働き方の変化 人々のつながりの必要性が増大 	<ul style="list-style-type: none"> 防災整備ハード対策 人材育成ソフト対策 早期避難のしくみ 防災減災の安全安心の確信 	<ul style="list-style-type: none"> AI、IoTの拡大により遠隔操作の常用 テクノロジーの進化によるコミュニティの変質 デジタル革新による生活スタイルの変化 	<ul style="list-style-type: none"> 世界との結びつきが深まる 外国人県民との交流拡大 新しいものや考え方を今後も取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 兵庫の産業の付加価値創出 公益資本主義潮流が生まれる 共有型経済やワーカーズ・コップの拡大 コミュニティ・ビジネス等の取組の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について各主体が影響を考え行動 雇用の流動化により、働き方、暮らし方の自由が高まる 既存の枠組みにとらわれない考え方や行動

第3章 阪神地域の特性

1 阪神地域の人の動き

- 阪神地域面積は650km²で県全体の面積8,400km²の約7.7%
- 県内人口約540万人のうち約32%の約175万人が居住
- 30～40代のファミリー層の転入、20代の若者層の転出超過
- 阪神北地域は2015年の健康寿命算定結果が男女とも県内1位
- デジタル技術の革新が、「ベッタタウン」の特性に影響を与える可能性



2 なりたち、自然・文化・歴史遺産

- 阪神地域は、兵庫県の南東部に位置し、7市1町で構成
- 東は大阪府、西は神戸市及び北播磨、北は丹波、南は大阪湾に囲まれる
- 北部に六甲・北摂連山、南部に大阪湾沿岸部を有し、武庫川水系や猪名川水系の本支流が流れ、北西部に三田盆地、南部には甲子園浜、御前浜(香櫨園浜)、芦屋浜など住民の生活や心を潤す環境を形成
- 明治期以降、都市化の進展や経済発展を遂げ、和洋折衷の生活スタイルや近代スポーツが浸透
- 地域と一体となった芸術活動やスポーツ活動が展開
- 変革の姿勢(起業に向けた機運の高さ)がある

3 許容性のある阪神の風土

- 阪神地域は、他地域からの人の流入、異国文化の受け入れ、多様な活動への許容性が高い
- 住んでいる地域への愛着、誇り、生活への満足度が高い
- 健康寿命が高くアクティブシニアが地域社会の担い手としての役割の期待が高い
- 先進的な私学教育をはじめとする高等教育機関に代表される知の集積や先駆的な芸術家、社会活動、起業に向けた機運など変革の姿勢

4 環境配慮

- 高度経済成長期に環境問題に直面。公害対策や環境保全に取り組み、改善に成果
- 「尼崎21世紀の森構想」、「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)構想」の推進

5 多彩な産業

- 阪神地域の特性に応じた多彩な産業が展開
- 清酒の名産である伊丹や灘五郷(灘五郷のうち西宮郷及び今津郷)のような銘醸地が集積
- 明治時代は尼崎の臨海部を中心に工業地域として発展。現在はものづくり産業や起業、商工業が盛ん
- 都市近郊農業が行われ農畜林産物を共有。阪神北部では「阪神アグリパーク構想」を推進
- 高速道路網の充実により物流の効率化、地域産業の活性化を支える

6 災害の備え

- 阪神淡路大震災の経験から、自主的な防災に関する住民の意識が高い。
- 津波や高潮、武庫川水系や猪名川水系からの今後起こりうる大災害に備え、地域が一体となった住民による自主防災力の向上の要請
- 近い将来の南海トラフ巨大地震の懸念

第4章 新地域ビジョンの実現に向けたシナリオ

基本理念：コ・クリエーションなまちの実現 ～住んでよし、働いてよし、集ってよし～

- 様々な環境の人々がそれぞれの環境を認め理解し助け合う地域
- お互いの環境を認め、重層的につながるにより豊かな暮らしと地域の活力を創造する「コ・クリエーションなまち」の実現

コ・クリエーションなまちのビジョン

1 住んでよし	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが自然と参加できるコミュニティ コミュニティとの関係を維持しつつ地域住民が住み続けたいと思えるまち
2 働いてよし	<ul style="list-style-type: none"> 多彩な産業、豊富な地域資源、近郊都市へのアクセスの良さ多数ある高等教育機関 誰もがいつでもどこでも学べ、働きやすく、起業しやすい環境
3 集ってよし	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の活用 都市、里山、里浜に近い自然の魅力や多様な芸術文化を活用

阪神新地域ビジョンの実現に向けた方向性

自分らしいスタイルが実現できるまち

- 自然に近い都市近郊で起業やまちづくりの活動
- 職住近接の地域で挑戦できる
- 多様な暮らしを実現
- 発展する技術の環境への活用

自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち

- 地域に愛着を持った人を育む
- 歴史、芸術文化をいかした地域振興
- 引継がれてきた自然や歴史を受け継ぐ

みんながつながる、やさしいまち

- おせっかいがおせっかいだと感じない地域
- 地域のサポートや見守りの充実
- 一体的なつながりによる地域の防災・減災
- 多様な人々が参画する地域コミュニティ(コ・クリエーション)の実現

にぎわいのあるまち

- 地域資源の再発見や磨き直しや活用
- 様々な人との交流の促進
- 一層にぎわいのあるまちを実現

第5章 新地域ビジョンの実現に向けて

- 大学、企業、行政、市民がビジョンを共有し、連携して実現に向け取組を進める
- 地方自治体は地域の活動を支援